



2026年3月期 第一四半期決算 補足説明資料

2025年08月08日
株式会社フジタコーポレーション
証券コード:3370

26年3月期第一四半期-業績サマリー

○2026年3月期第一四半期は増収、増益

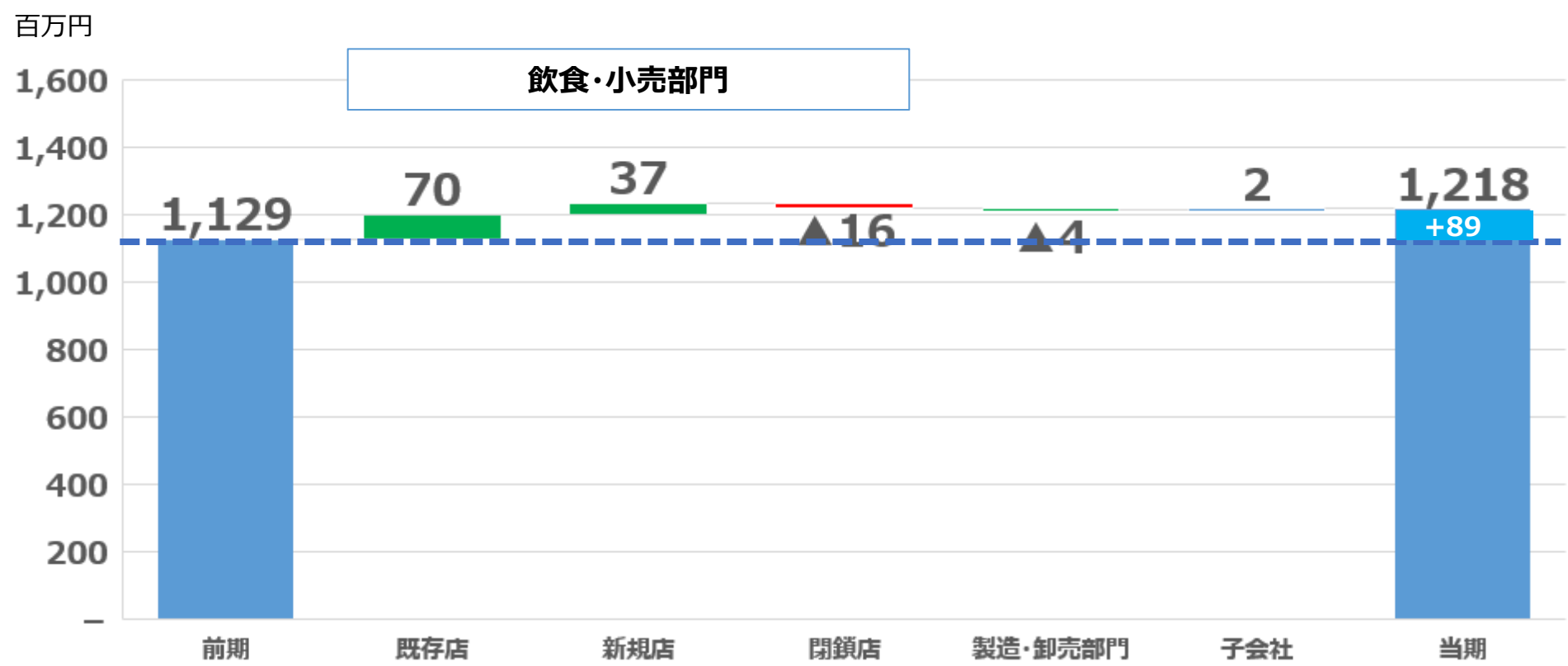
売上高：4月から委託運営を開始した「道の駅あいおい」及びミスタードーナツ、モスバーガー等の既存業態が好調に推移したことによって、前期より104百万円増加。閉鎖店分16百万円減少により、合計88百万円の増収となった。

営業利益：売上増収による利益増

	25.03期1Q		26.03期1Q		前期比		(百万円)年間計画	
	実績	売上高比	実績	売上高比	金額	対比	計画	進捗率
総売上高	1,129		1,218		88	107.8%	5,139	23.7%
売上総利益	666	59.0%	725	59.6%	59	109.0%	3,055	23.7%
営業利益	▲3	-0.3%	29	2.4%	33	-816.8%	149	19.5%
経常利益	▲1	-0.1%	28	2.3%	29	-2554.3%	131	21.4%
親会社株主持分に 帰属する当期純利益	▲5	-0.5%	21	1.8%	26	-409.9%	123	17.1%

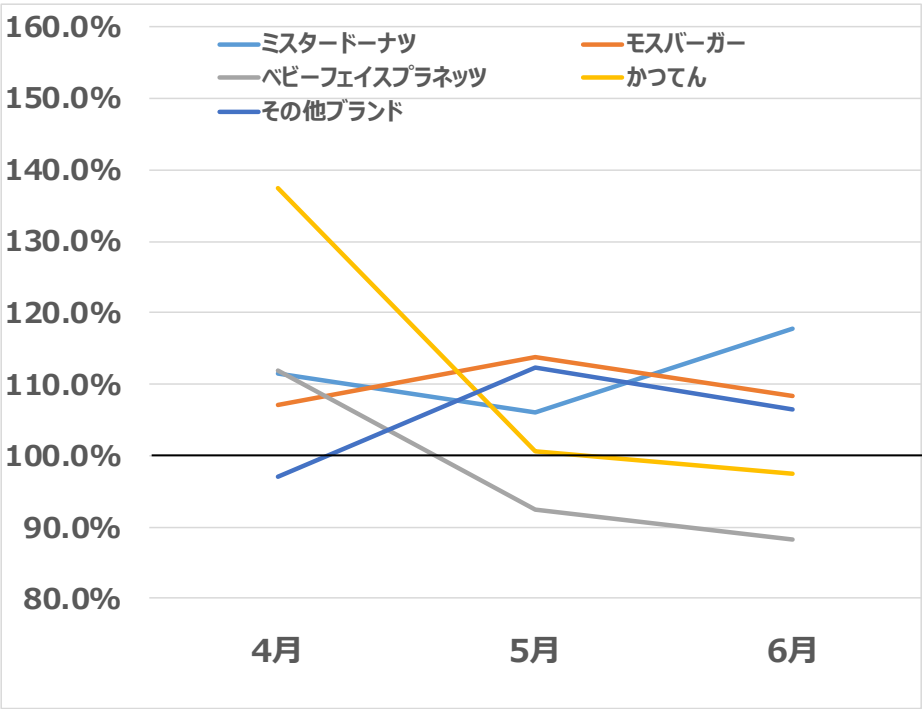
○セグメント別一売上高実績

- 飲食・小売部門 既存店 前期比 70百万円増 (前年同期比107.1%)
 新規店 前期比 37百万円増 道の駅あいおい委託運営
 閉鎖店 前期比 16百万円減
 合計 91百万円増 (前年同期比109.1%)
- 製造・卸売部門 前期比 4百万円減
- 子会社 前期比 2百万円増

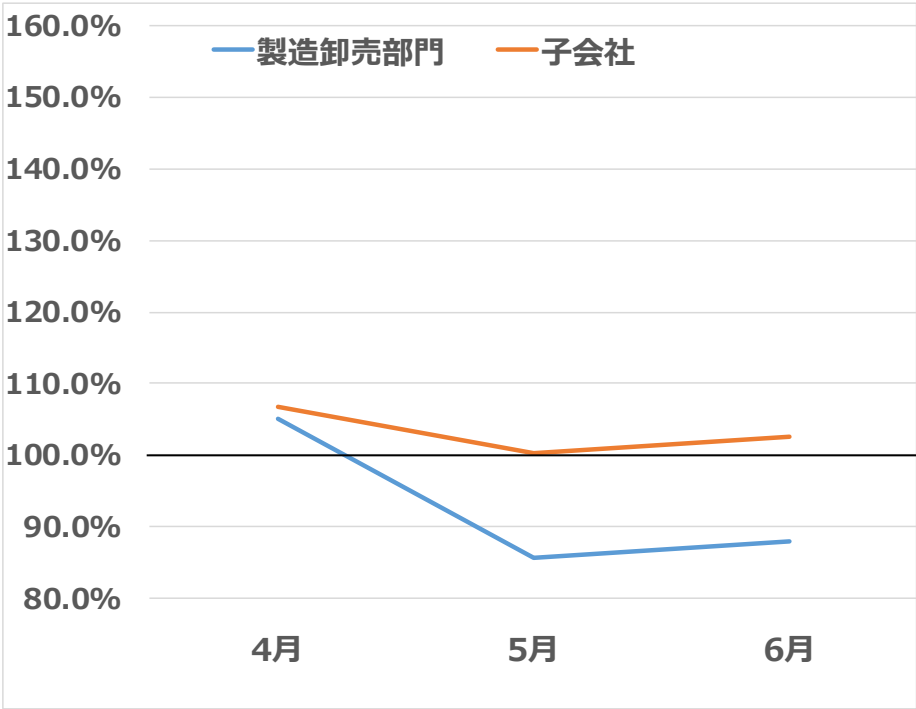


売上高前期比の推移（既存店）

- 飲食・小売部門においては、主要ブランドで前期より伸長している。
ベビーフェイスプラネットは前期出店店舗（4月）との差異が影響。
- 製造・卸売部門においては、前期並みの水準となった。
- 子会社農畜産部門は前期からの乳牛増頭施策により順調に伸長し前期比103%となった。



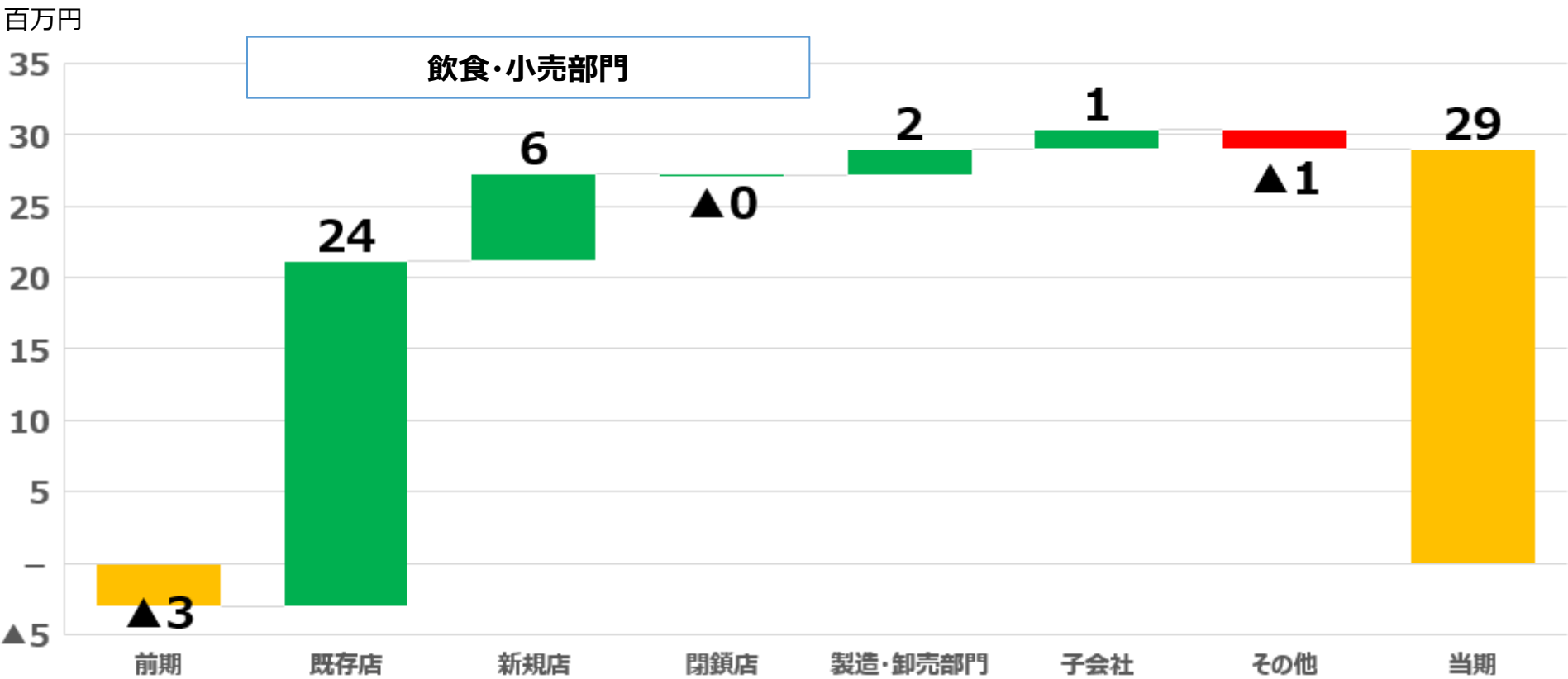
部門名	1Q	4月	5月	6月
ミスタードーナツ	111.9%	111.6%	106.0%	117.7%
モスバーガー	109.8%	107.0%	113.9%	108.4%
ベビーフェイスプラネット	96.7%	111.8%	92.4%	88.3%
かつてん	109.5%	137.5%	100.5%	97.6%
その他ブランド	105.3%	97.0%	112.4%	106.5%



部門名	1Q	4月	5月	6月
製造卸売部門	93.4%	105.1%	85.7%	87.9%
子会社	103.2%	106.7%	100.3%	102.5%

○セグメント別ー営業利益実績

- 飲食・小売部門 既存店 前期比 24百万円増
 新規店 前期比 6百万円増 道の駅あいおい委託運営
 合計30百万円増
- 製造・卸売部門 前期比 2百万円増
- 子会社 前期比 1百万円増



○連結貸借対照表

(百万円)

	前期末	第一四半期末	増減額
流動資産	705	732	27
現金及び預金	365	392	26
その他	340	341	1
固定資産	2,094	2,096	2
有形固定資産	1,391	1,409	18
無形固定資産	193	189	▲4
投資その他の資産	509	497	▲12
資産合計	2,799	2,828	29

	前期末	第一四半期末	増減額
流動負債	785	798	12
短期借入金	229	324	95
1年内返済予定長期借入金	156	102	▲55
その他	400	372	▲28
固定負債	1,775	1,804	29
長期借入金	1,654	1,681	27
その他	120	122	2
負債合計	2,560	2,602	41
純資産合計	239	226	▲12
負債・純資産合計	2,799	2,828	29

1.道の駅あいおいの業務委託運営

地域資源の有効活用を軸とした事業展開を加速させるとともに、北海道産食材の魅力を全国および国内外の市場へと発信するための戦略的パートナーシップとして、今後の成長基盤を確固たるものにすることを目的に株式会社相生振興公社と業務提携を結び、「道の駅あいおい」の委託運営を開始しました。



2.営業店舗の改装

- ①ミスタドーナツイオンモール平岡ショッブ改装（6月）
- ②ミスタドーナツ登別イオンショッブ改装（7月）



3.製造・卸売事業

- ①子会社TOMONIゆめ牧舎の廃用牛を活用した商品開発・展開
- ②保有のカシス農園のカシスを使用したカシスリキュールに続きカシスエールの販売開始



4.子会社TOMONIゆめ牧舎

生乳買取価格は上昇、飼料価格単価は減少し経営環境が改善している。

- ①生産量増産に向け乳牛購入
搾乳頭数増により生産乳量が増加し、売上高前期比103.2%となった。
- ②飼料費削減に向けデントコーン作付の更なる拡大。
- ③廃用牛の加工、商品化⇒かつてんメニュー化、リテール販売



- 本資料は、情報提供を目的としたものであり、当社株式等特定の商品についての募集・投資勧誘・営業等を目的としたものではありません。
- 本資料の内容及び資料に記載された意見や予測等は資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性を保障するものではありません。様々な要因の変化により実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。
- 本資料で提供している情報は万全を期していますが、その情報の正確性や完全性を保証するものではありません。また予告なしに内容が変更又は廃止される場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 本資料は投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合であっても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。
- 資料及びデータの無断転用はご遠慮ください。